七戸町立 鷹山宇一記念美術館

第15号
【平成11年6月15日】

SUPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858　FAX 0176-62-5860

平山郁夫展に一万四千人を超える入館者

平成6年開館以来の新記録

平成11年4月29日から5月30まで32日間にわたり開催された、「世界の文化遺跡を描く平山郁夫展」は、最終日1，058名ものお客様にご来館いただき、盛況裡に幕を閉じました。

今展覧会は、14，570人という開館以来最高の入館者数を記録しました。会期中の5月16日には、当町の天王つつじ祭りとの相乗効果と考えられる、一日1，070人という新記録を達成、まさに記録づくめの展覧会となりました。紙面をお借りしましてご後援・ご協力下さいました各関係機関、並びにご高覧くださいました皆様方、そして、監視ボランティアとして貴重なお時間をさいてご協力いただいた友の会の皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ここで、友の会会員で二科会青森支部同人・二科会会友の安田勝子様より平山郁夫展に寄せた文章をいただきましたので、ご披露いたします。

平山郁夫展に寄せて

■安田勝子■

先日、友の会役員の盛田駿造様から今回の特別企画、平山郁夫展に寄せて何か感想文をと依頼され、簡単に引き受けたことを、今になって後悔しながらペンをとっています。

今まで、秋の二科展（東京都美術館）と同時に開かれる院展で、機会あるごとに平山画伯の作品を数多く拝見してきましたが、今回改めて仏教伝来のテーマに熱い感動を受けました。

画伯の作品に初めて会ったのは、一九六九年「高耀る藤原京の大殿」の六曲屏風を見たとき、幻想の都のなかに吸い込まれそうになったのが、昨日のように思い出されます。またシルクロード楼蘭の王女を、オリエンタルブルー一色の中に月光を受けて眠る姿を描いた「鄯善国妃子」100号は、一九八六年楼蘭の遺跡を訪ねる十年前に描かれたこと。今回の素描画の楼蘭遺跡と重ね合わせて、画伯の楼蘭に抱く深いロマンを感じます。また一点一点の作品にかける画伯の思いが、見るものを時間の中に閉じこめてしまうのは何なんだろう。

世界の文化遺跡を描くという見出しでしたが、画伯が十五歳の時、広島で被爆し放射能の被害に苦しんだことから、平和への祈りをテーマに絵を描く事から始まり、仏教伝来からシルクロード、世界各地を四十年にわたり約百回の取材旅行をしてきたこと、そのなかで多くの文化遺跡が民族や宗教戦争、貧困によって荒廃したのを見て、文化遺産をものとして保存するだけでなく、国や民族の誇りを、保存修復事業を通して、人間性の復活とともに取り戻す事を願い、世界の文化財赤十字構想を提唱されていること。

またその一環として、一九八九年からアメリカ、フリーア美術館の日本古美術品（日本では重要文化財、国宝クラス）が米国側の扱いが不慣れのため破損が著しく、在外日本古美術品を甦らせるために、国境を越えて歴史的文化遺産の保存・修復に、資金・人材養成面での貢献を計り、門外不出の作品を、日本に搬送して修復し、今までに五十数点修復完了し返却しています。

画伯はこうした援助をふまえて、米国の美術館に散在している日本古美術品の修復と修復師養成のため、平山FOUNDATIONを設立、フリーア美術館に寄付しています。

旺盛な制作活動の傍ら、精力的に国家的事業に尽くされていることに、たゞ驚きと感動を受けます。今特別企画がより多方面に反響を呼んだのも、このような画伯の生き方に培われた作品に接して、それぞれに肌で何かを感じ、そして語られ、より多くの方々に、観て頂けたのではないでしょうか。この様な機会をつくってくださった鷹山宇一記念美術館に感謝します。

【友の会会員】

本展入館1万人目の七戸中学校3年田栗真貴子さん

報告 鷹山宇一記念美術館友の会 平成11年度通常総会並びに美術講演会(6/5)

平成11年度の通常総会が、6月5日(土)午後1時から美術館2階工房において開催され、全議案承認されております。ここにご報告いたします。

なお、今回初めての試みとなりました当会主催による美術講演会を、通常総会終了後の午後2時30分から、同じく美術館2階工房において開催いたしました。(財)棟方志功記念館館長・福井平内先生を講師としてお招きし、「棟方志功の世界」をテーマに、志功本人と実際に接してこられた先生ならではの貴重なお話を伺いました。

この場を借りてお礼申し上げます。有り難うございました。

■議案第1号■H10年度事業報告並びに貸借対照表・収支決算書承認の件

貸借対照表　平成11年3月31日現在　単位：円

資産勘定		負債・繰越金勘定	
科目	金額	科目	金額
現金	23,820	前受会費	943,000
預金	1,856,906	11年度分	928,000
青銀・七戸	1,093,606	12年度分以降	15,000
郵便・七戸	463,300	未払費用	67,750
絵画購入積立預金	300,000	小計	1,010,750
前払費用	5,700	絵画購入積立金	300,000
		前期繰越金	210,431
		当期剰余金	365,245
		小計	875,676
合計	1,886,426	合計	1,886,426

収支決算書　平成10年4月1日～平成11年3月31日

支出		収入	
科目	金額	科目	金額
事業費	999,000	会費収入	1,626,000
助成金	675,600	寄付金収入	28,121
会報発行費	269,400	雑収入	1,228
研修費	13,000		
雑費	41,000		
事務費	291,104		
会議費	19,300		
印刷費	29,800		
通信費	189,590		
諸手数料	7,910		
事務用品費	2,504		
慶弔費	42,000		
小計	1,290,104	小計	1,655,349
当期剰余金	365,245		
合計	1,655,349	合計	1,655,349

事業報告

1. 展覧会等
監視ボランティア活動

春季二科展(4/25～5/17)
参加人数・延べ35人

ガウディ展(6/13～7/5)
参加人数・延べ140人

2. 研修旅行

①鷹山宇一卒寿記念展
(於:東京国際美術館)
ファーレ立川
5/9(土)・10(日)1泊2日
16名参加

②青森県近代日本画・文学の旅
青森県立郷土館
「青森県近代日本画の歩み展」
弘前市立博物館
「蔦谷龍岬と弟子たち」
弘前市立郷土文学館
太宰治記念館「斜陽館」
9/27(日)　44名参加

3. 会報の発行
第11、12、13、14号を発行

4. 絵画購入積立金
平成9年度剰余金処分により10万円を積増し、累計は30万円となりました。

■議案第2号■H10年度剰余金処分案承認の件

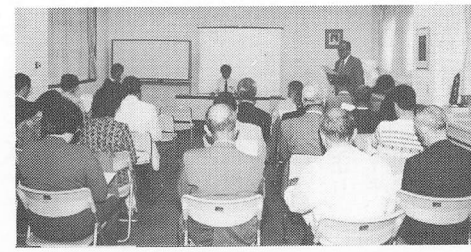
1　未処分剰余金

前期繰越金	210,431	円
当期剰余金	365,245	〃
計	575,676	〃

2　次の通り処分したい

絵画購入積立金	200,000	円
次期繰越金	375,676	〃
計	575,676	〃

☆　絵画購入積立金は、累計で500,000円になります。



通常総会にて

友の会主催美術講演会(6/5) 棟方志功の世界

講師 (財)棟方志功記念館 館長 福井平内先生

約30名の聴講者を前に、棟方志功の生い立ちから作風そしてお人柄など、棟方志功記念館館長としてのお立場からのみならず、志功との親交、また同じく板画家としての先生ならではの視点からお話しくださいました。大変勉強になる貴重な2時間30分でした。有り難うございました。

■議案第3号■H11年度事業計画案並びに収支予算案承認の件

収支予算書(案)

自　平成11年4月　1日
至　平成12年3月31日

収入の部　単位：円

科目	内訳科目	金額	摘要
前期繰越金		375,676	
会費収入	240人	1,550,000	法人 400,000 特別 700,000 一般 450,000
雑収入	預金利息	500	
収入合計		1,926,176	

支出の部

科目	内訳科目	金額	摘要
事業費		1,042,000	
	助成金	642,000	法人 184,000 特別 308,000 一般 150,000
	会報発行費	230,000	会報印刷費・取材費
	研修費	130,000	研修他
	雑費	40,000	画集購入
事務費		273,000	
	会議費	30,000	総会　役員会
	通信費	200,000	会報発送　その他
	事務用品費	5,000	事務用品等
	諸手数料	8,000	郵便局振替手数料
	慶弔費	20,000	祝儀、香典
	雑費	10,000	反省会等
支出合計		1,315,000	
予備費		611,176	繰越金 375,676 剰余金 235,500
合計		1,926,176	

事業計画(案)

1. 展覧会等
監視ボランティア活動
①平山郁夫展(4/29～5/30)
②第59回国際写真サロン
(6/26～7/11)
③鷹山宇一の素描展
(7/17～9/5)
④前田真三写真展
(9/11～10/11)
⑤H11年度
青森県/美術館コレクション展
(11/11～11/28)

2. 研修旅行
①岩手県・アジア民族文化と琥珀の旅
アジア民族造形館
久慈琥珀博物館　他
7/25(日)
②スペイン美術紀行
H12. 1/19～1/27

3. 会報の発行
第15、16、17、18号を発行

4. 美術講演会の開催
通常総会終了後(6/5)

5. 絵画教室の開催
美術館と共催
6月～10月までの全10回

4. 絵画購入資金の積立
毎年度終了後に剰余金が生じた場合、友の会運営に支障のない範囲で積み立てし、美術館が鷹山絵画を購入するための援助資金とする。

鷹山宇一記念美術館NEWS & REPORT 1999.6 Vol.14

－世界の文化遺跡を描く－

平山郁夫展

平成11年4月29日(木)→5月30日(日)

当館開館5周年を記念した今展も、友の会をはじめとする多くの方々のご協力により、県内外から14,570人という美術館開館以来の入館者数を記録し、盛況のうちに閉展することができました。

平山画伯の作品に触れ、心を揺さぶられ、友の会会員、町内各団体、美術好きの皆様のボランティア活動による、きめ細やかな温かい応対に、お客様の心もより一層潤いに満ち満ちたことでしょう。

ここで、32日間にわたる会期中の出来事を美術館からレポートします。

ご協力、本当にありがとうございました。

オープニング★レセプション(4/28)

平山郁夫展の開催に先立ちオープニング・レセプションを開催しました。来賓として、平山画伯が理事長を務め、世界の文化財保護のための活動を展開している(財)文化財保護振興財団から専務理事・谷久光氏と、本展の事務局である平山郁夫展実行委員会から藤居美奈氏をお迎えしました。美術館関係者等約50名の出席のもと、当財団青山浄晃理事長、並びに、同じく理事でもある福士孝衛七戸町長の挨拶の後、谷氏からご挨拶を頂戴しております。

国境・民族・宗教を超えた文化遺跡の修復作業を通じて、異文化間に交流がおきると共に相互理解の心が芽生えそれが世界平和に役立つ、という平山画伯が提唱された「文化財赤十字構想」が今、21世紀に向けての国際的なひとつの主張・思想となっていること。また、

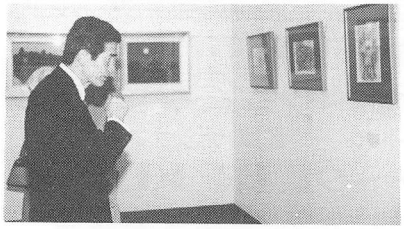
レセプション会場にて。(財)文化財保護振興財団専務理事・谷久光氏。

平山展入館者第1号(4/29)

「特別展にはよくお邪魔しているんですよ」と十和田湖町在住の和田正人さん。お嬢様と3人でご来館くださいました。いつもありがとうございます。

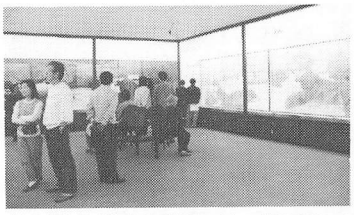
お忙しい公務の合間をぬってご来館くださいました(5/1)

木村守男県知事



美術館へ来る途中の緑を見て、この萌え出てくる色が鷹山先生の原点の色だと感じられたこと。そして、芸術家が1人生まれたことにより、町をあげてこのように美術館が作られ、文化の発信地として未来永劫続いていく、またこれが新しい世代の方々に、文化というものに対する理解を燦然と放っていける、ということに改めて感動した。などと、当館にとりましても大変嬉しいお話をいただきました。

1日の入館者開館以来最高の1,070人を記録!!(5/16)



特別出品「流水無間断」(奥入瀬渓流)本画・大下図を展示した室内の様子。青森県人には特に人気が高かったようです。

本展を取りまとめている平山郁夫展実行委員会からご来館(5/9)

(左)実行委員会委員長で瀬戸田町立平山郁夫美術館館長・平山吉雄氏は平山画伯のお兄様。
(中央)実行委員会事務局の立石亥三美氏。

お呈茶の披露(5/9)

ご来館のお客様の喉と心に潤いを与えて下さいました。淡交会有志の皆様、ありがとうございました。

ボランティアの皆様本当にありがとうございました

本展には一般82名、高校生28名という多くの方々がご協力くださいました。厚く御礼申し上げます。

お茶を一服ひと休み。高校生ボランティアのふたり。お疲れさまでした。

平山展入館者第1万人目田栗真貴子さん(5/22)

地元の中学3年生の田栗さん。本展を楽しみにしていたとのことで、この日は部活動が終わったあと、お母様を誘ってご来館。

第59回国際写真サロン

鷹山宇一記念美術館企画展

6月26日(土)
7月11日(日)

全日本写真連盟・朝日新聞社主催第59回国際写真サロン展が今年も2週間にわたり開催されます。

今年は開催2日目の6月27日(日)、審査委員のお1人で全日本写真連盟理事の岩永辰尾氏をお迎えして、講演会とモデル撮影会を全日本写真連盟青森県本部(鎌田清衛委員長)の事業として行うことになりました。午前中は「国際写真サロン鑑賞のポイント」と題しての講演、午後はモデル撮影会、と1日楽しんでもらえるイベントにしたいと考えております。

今回のサロンには海外51カ国から3,060点、国内から4,023点の総計7,083点の応募がありました。国内では大阪の689点を筆頭に愛知の323点、福岡249点と応募されています。審査の結果海外80点、国内50点の入選が決まり、この中から審査委員特別賞として海外3点、国内3点が選ばれています。海外の入選ではベトナム16点、中国7点、と順位が入れ替わり、続いてオーストリア5点、ドイツ、インドの4点となっています。国内では大阪10点を筆頭に愛知6点、福岡5点という結果でした。応募者が少なかった青森県からの入選はありませんでしたが、10名36点の応募がありました。当館の開催で刺激を受け応募者が増えたのでは、と喜んでおります。

☆国際写真サロンの歴史

1927年(昭和2年)に全日本写真連盟が創立事業として朝日新聞社と共催で海外に呼びかけ、15カ国が参加し、第1回が開催されました。一時中断しましたが1950年から毎年開催されています。審査委員長は秋山庄太郎先生です。

☆全日本写真連盟

略称、全日写連は1925年(大正14年)に創設された写真愛好団体で朝日新聞社が後援する全国的な組織です。写真文化の発展と会員の親睦を図り、写真を通じて社会に貢献することを目的として写真コンテスト、ゼミナールなどを行っております。鷹山宇一先生の旧友秋山庄太郎先生は全日本写真連盟の副会長(会長は朝日新聞社長)です。県内には六支部あり七戸支部(江渡孝一郎支部長)では今年から行う講演会&モデル撮影会の主管支部として事業を行います。朝日新聞県内版で毎週木曜日に各支部の作品が紹介されております。

全日写連青森県本部事務局長
鷹山宇一記念美術館友の会理事
石田清剛

第59回国際写真サロン
審査委員特別賞・GERARDUS VAN MOL(蘭)
サンネとコリー:ブルー編

■講演■
◇とき
6月27日(日)10時～12時迄
◇ところ
七戸中央公民館
◇はなし
全日本写真連盟理事
岩永辰尾氏

■モデル撮影会■
◇とき
6月27日(日)
13時30分～15時30分迄
◇ところ
七戸町・道の駅しちのへ
鷹山宇一記念美術館中庭
◇しどう
全日本写真連盟関東本部
委員他

※いづれも参加費無料
参加者には国際写真サロン入館優待券を差し上げます。
500円→400円

開館5周年記念特別企画展

鷹山宇一の素描展

静謐のレゾン・デートル ― 幻のデッサンたち

7月17日(土)～9月5日(日)迄

1998年春、東京国際美術館(東京都多摩市)を会場に「鷹山宇一卒寿記念展」が開催されました。その折、鷹山宇一のデッサンが初公開されましたことは、皆様もご承知のとおりです。あくまでも己の絵の修行のためのもの、と一筋に公開を避け、長く画家自ら秘蔵してきたデッサンでした。この度、開館5周年を記念して、当館において公開いたします。その確かな技術のみならず、画家・鷹山宇一の魂に触れていただけたなら、幸いに存じます。尚、会期中、二科会青森支部展を併催いたします。是非、ご鑑賞ください。

鷹山宇一
デッサン集
刊行!!
7月中旬を予定
¥2,000(予価)

美術館日誌

【3月】
◇当財団平成11年第1回評議員会と第2回理事会を開催(20日)
◇鷹山館長東京から七戸へ引っ越し(26日)

【4月】
◇デーリー東北新聞社七戸支局・十和田新報社鷹山館長を取材(8日)
◇火曜サロン・七戸町春祭り行事関係者打合会(13日)
◇ABAスーパーJチャンネルへ鷹山館長テレビ電話で生出演(22日)
◇東奥日報社十和田支局鷹山館長を取材(23日)
◇午前9時から平山郁夫展展示作業開始。午後6時から平山展オープニング・レセプションと特別観覧会を開催(28日)
◇平山郁夫展初日(29日)
◇七戸養護学校来館(30日)

【5月】
◇木村守男青森県知事来館。平山展をご鑑賞(1日)
◇倉岡小学校、城南小学校来館(6日)
◇野々上小学校、天間西小学校、七戸養護学校来館(7日)
◇広島県平山郁夫美術館館長平山吉雄氏来館。茶道裏千家淡交会有志の方々によるお呈茶を開催(9日)
◇火曜サロン開催。NHK八戸支局平山展取材。城南小学校来館(11日)
◇西野中学校来館(13日)
◇七戸養護学校来館(14日)
◇七戸小学校、七戸養護学校来館(17日)
◇ATVおしゃべりハウスに鷹山館長・大池学芸員生出演(18日)
◇七戸中学校来館(19日)
◇十和田湖町老人大学来館(20日)
◇七戸中学校来館(21日)
◇平山郁夫展入館者1万人達成。七戸中学校3年田栗真貴子さん(22日)
◇七戸中学校来館(24日)
◇七戸中学校来館(25日)
◇野々上中学校、七戸中学校来館(27日)
◇七戸高等学校来館(28日)
◇十和田工業高校美術部員来館(29日)
◇平山郁夫展最終日

★美術館からお知らせ★

8月1日(日)開館記念日
どなたでも無料でご入館いただけます。

8月6日(金)コンサート
グリーンファーム弦楽合奏団
ミュージアムコンサート
絵画室1・2において
18時会場、18時30分開演
一般¥1,000
問合せ・七戸中央公民館

8月13日(金)美術館
14日(土)夜間開館
★開館時間 10時～20時迄

連載 第2回

【七戸町柏葉館展示絵画】

「牡丹に唐獅子」ものがたり

□□□ 福士 忠 □□□

■前回までのあらすじ■

七戸町において、主に多目的ホールとして広く利用されている柏葉館の壁面を飾る、鷹山宇一作「牡丹に唐獅子」。この作品が生まれた背景について当時の事情に詳しい友の会会員・福士忠氏により長文の原稿が寄せられました。前回は戦前・戦後の七戸町の文化の状況が語られましたが、今回は引き続きこの作品誕生の経緯について、当時の貴重な写真とともに回想が進みます。

公民館建設要望の機運が高まりつつあった昭和二十六年、当時青年連盟会長であった立石健二氏は約八〇〇名の署名をもって公民館建設方を町議会に請願し、同二十八年には当時町議であった浜中太郎氏（盛田文造氏亡き後公民館長となる）は個人で約七〇〇名の署名を集め請願するところあり、一気にその要望が高まってきた。

斯くして昭和三十四年漸（ようや）くこれが具体化、用地の獲得・設計・建設の段階を経て、町立七戸公民館が現在地に輝かしい誕生を見たのは昭和三十八年三月三十一日の事であった。

盛田文造氏は昭和二十五年九月、町長在職中惜しくも事故によって亡くなられたが、文化運動には極めて深い理解を示され、労力と私財をつぎ込んでその育成に努められ、今日の公民館の基礎を築かれた方であり、正に先見の明ある士と申さねばならない。

第三章　柏葉公民館と花菱会

今の影津内の一部に、終戦直後の頃まで新地と呼ばれる遊芸歓楽の一地域があったが、数ある芸達者の中に高助姐さん・ちえ子姐さんという名妓が居って、その優れた技は人々に愛され人気を博していた。

昭和二十年八月までの戦時中は、この種の歌舞遊芸は勝つ事を専一とする国策の為、逼塞の状態に置かれていたのであるが、ただ戦意の高揚とか供米督励や農村慰問とかには大いに利用されたもので、当時娯楽に飢えていた人々、特に農村地帯にとっては大歓迎を受けたものであった。

柏葉文化会を率いる盛田文造会長は、こういう所謂国策には率先協力を惜しまなかったのであったが、当局からの要請といって部落や町内廻りをしても、多くの人を集める事の難しさは今も昔も同じこと。そこで時局講演会とか要請説明会には演芸慰問の一行を加える事としたもので、それが前記姐さん方を中心とする芸達者の人達であり、その名は花菱会と名づけられていた。その出演要請、諸連絡等の事務は主として金子聖海氏が行ったもので、心ある人達の応援を得て町内会、部落会を通じたり広報ビラを貼り歩いたりしたものである。

第四章　鷹山画伯の疎開帰郷前後

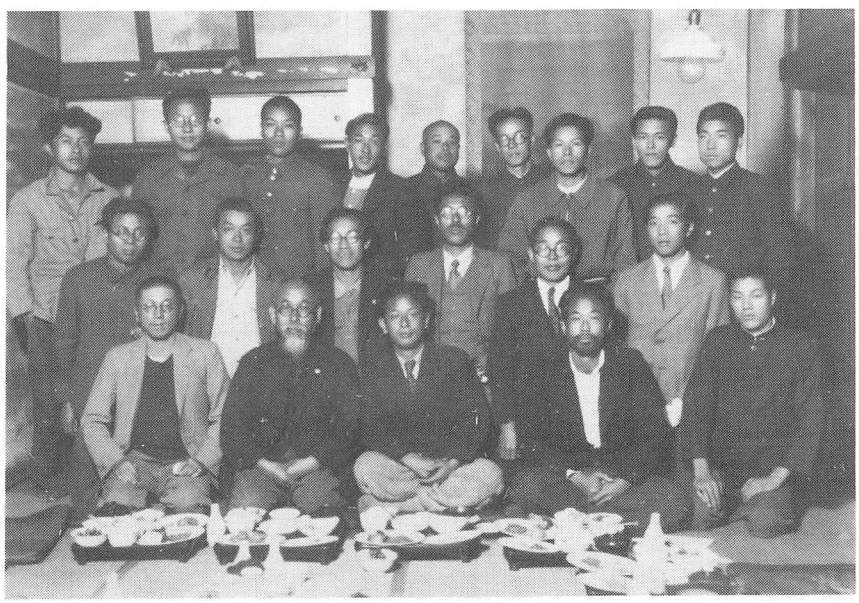
鷹山画伯はその年譜によれば、昭和十八年（三十五才）、海軍航空隊員として戦時召集を受け、間もなく解除となって一時七戸へ疎開帰郷された。昭和二十年には「二科会再建に当り会員として復帰」とある。中央に於ける画壇の趨勢を見、聞きしては、画伯としても地方に詰屈している事は堪えられず、翌々昭和二十二年再び上京という事となる。

その頃のアルバムの中に、「二科会々員鷹山宇一画伯送別会・於大重旅館」と書かれた一葉の写真を見つけた。大重旅館は下町、今のイベント広場にあった。戸田俊美氏所有のアルバムには「昭和二十二年十月十二日・文化人及びタイムス社同人一同での宇一画伯送別会」と書かれてあった。同氏の記憶によれば、当時盛田文造氏を会長とする「七戸政治経済研究会」というのがあり、同会の主催による会合であったという。

出席者は画伯を中心にして盛田文造・岡村清志・藤島均・盛田正太郎・盛田廣治・工藤正六・中村貞夫・米内山治郎・袴田栄・石田善三郎・新谷栄三郎・听富雄・米内山正吉・佐藤浩一・戸田俊美・五十嵐文造・林仁平・盛田敬三それに筆者の二十人。終戦間もない頃の事とて万事不如意。それでもお膳には六・七品の料理が並び、お銚子が方々に立っている。

画伯は当時三十九才、独身時代最後の年であった。中央画壇復帰を目指して雄心勃々たる画伯は、その日を期して準備に怠りなく、昭和二十一年、七戸保育園において活動資金獲得の為に個展を開催した。作品は当時の地方の実情も考慮し、手に入れ易い小品のものが多く、現在町内に残存するものは、この時と昭和二十八年に当時七戸町にあった県保健所を会場に開いた個展の時のものが殆どであろう。

【次号へ続く】



昭和22年10月12日鷹山画伯送別会の際の貴重な写真
前列左から２人目が盛田文造氏、３人目が鷹山画伯

会員の窓 投稿エッセイ

開かれた知の美術館

照井寿一

5月16日に鷹山宇一記念美術館で開催中の特別企画展「世界の文化遺跡を描く平山郁夫展」を妻と連れ立って見に行ったおり、訪れているたくさんの方々が和気あいあいと作品について自由に自分の思い入れを語っている姿を見て、本年4月に新館長として着任された鷹山画伯の長女・鷹山ひばり氏が会報第14号の新任挨拶の中で「文化は知恵であること」を自覚して、「若い美術館」だから「開かれた知の美術館」として一歩一歩確実に歴史を刻んでいきたいと所感を述べておられたことを思い出し、今回の平山郁夫展は、その記念すべき一歩として鷹山宇一記念美術館の歴史に刻まれていくのではないかと思っています。

今年で開館5周年を迎えるということですが、開館当時、鰺ケ沢町に赴任していた私は、七戸町に地元出身画家の作品を収集した美術館が建設され、二科展も開催されることになるなどのニュースを見聞きするたびごとに、また、知人や友人等との歓談中に美術館のことが話題になると、普段は文化や芸術に縁遠い私でも、嬉しくなり古里自慢をしたものです。平成6年の開館以来、絵画等の作品はもちろんですが、絵馬館やランプ館の展示作品を鑑賞することも楽しみにしており、昨年は会報に「彫刻のはなし」を連載中の彫刻家・吉野毅先生の講演会も拝聴させていただくなど、芸術鑑賞という世界に少しだけ足を踏み入れることが出来るようになったと思っていますが、これも開かれた美術館が近くにあったお陰だと思い、美術館建設にご尽力なさった多くの方々に感謝しております。また、今年度予定されている「第59回国際写真サロン」「青森県・美術館コレクション展」などをはじめとする多様な企画展を今から楽しみにしています。

5周年を迎えた鷹山宇一記念美術館は、鷹山ひばり新館長を迎えられ地域に文化という「恵み」を与える「開かれた知の美術館」として、県内外から訪れる方々に愛され発展していくことと思います。

（友の会会員）

お呈茶を終えて

淡交会青森支部十和田青年部OB
友の会会員

平山郁夫展が開催中の、風薫る5月9日、盛田先生、坂田先生のご協力の下に平山画伯とお家元とご一緒の写真に見守られてお呈茶を行いました。今回は４００人と、今まで一番多くの方々がお席に着きました。

たくさんのお客様が席に着かれて初めて気付いたことは、私達はこれまで、お客様が御菓子を頂いてしまうのを待ってお茶をお持ちするようにしておりましたが、多数の方々が、御菓子を持ったままお茶が出されるのを待っております。お茶を出しましたら、不便そうに片手に御菓子を片手にお茶を持ち、交互に頂いて、テーブルがないので大変そうでした。不親切に感じたことと思います。この時、御菓子をお運びしながらお客様に「どうぞ先に御菓子をお召し上がり下さい、あとでお茶を差し上げます」と、一言があったならと反省しております。それでもメインテーマ「一盌からピースフルネスを」通り、美術館にいらした皆様方に一服のお茶を差し上げることができ、良かったと思っております。

スペイン民芸資料館ロビーを会場に

中国敦煌莫高窟前で献茶式の後（1996. 6. 8）
平山画伯（後列右から２番目）と茶道裏千家
15代鵬雲斎千宗室家元（後列左から２番目）

募集

友の会会員並びに投稿文。
お気軽にどうぞ。
詳しくは、
美術館友の会事務局迄
☎0175-62-5858

夏の友の会研修旅行

岩手県☆アジア民族文化と琥珀の旅

★研修旅行先★
①アジア民族造形館
②久慈琥珀博物館
③大野キャンパス

★開催日★7月25日（日）
★参加費★3,000円
（観覧料、昼食代、交通費込）
★募集人員★30名
★締め切り★7月20日（火）
★申込み★美術館迄
TEL 0176(62)5858

□ □ □ □ □

この度の研修旅行のために下見に行って参りました。「アジア民族造形館」について少し感想を申したいと思います。

最初は、道路は狭いし、日曜日だというのにあまり車もないところ……。皆様方を連れていって大丈夫なのだろうか、と正直なところ不安になりました。ところが、入館して館の方に説明を頂きながら、民族楽器や民具等に触ったりと異文化に触れていく内に、「面白い」という気持ちになり、また、みんなでサリーとかチマ・チョゴリなど民族服を試着して写真撮影できるなど、とても楽しいひとときを過ごすことができ、是非、皆様にも体験していただきたいと思いました。

どうぞご参加下さい。

アジアの民族衣装を試着して記念撮影。下見に行った4名です。

研修旅行の日程（予定）

8:30 七戸中央公民館出発→ 9:45 道の駅はしかみ（トイレ休憩）→
11:00 アジア民族造形館・出発→ 12:00 昼食/野田村・出発→ 12:15
13:45 久慈琥珀博物館・出発→ 14:30 道の駅おおの・出発→ 15:15
16:45 八戸市内→ 17:45 十和田市内→ 18:00 七戸中央公民館・解散 13:15 15:45

※十和田市・八戸市周辺からもどうぞご参加下さい。現地集合も可。

編集後記

予想を上回る入館者を記録した平山郁夫展の余韻も醒めぬうちに、総会・研修旅行・絵画教室・次の企画展等々、会の事業も次々と予定されております。詳細については、お気軽に美術館までお問い合せ下さい。